

自らの健康問題を見つけ、自他ともに生涯にわたって心身を大切にしようとする児童の育成 -歯・口の健康づくりを通して-

愛媛県伊予市立下灘小学校

本校は、全校児童49名の小規模校です。歯・口の健康づくりを通して自律的に健康問題を見つけ自他ともに生涯にわたって、心身を大切にしようとする自律した児童の育成を目指して研究を行いました。主な実践について紹介します。

むし歯や歯周病の予防方法の理解と実践

授業や歯みがき指導を通して、歯や口の病気を予防する方法や自分の歯・口の健康に関心を持つようにしました。

1年生「ただしくみがいて きれいなは」



学級担任と養護教諭で、正しい歯のみがき方の技術を身に付け、実践意欲の向上を図りました。

きマイスターの選出



歯みがきへの意欲化を図るため、学期毎によくみがけている児童を、歯みがきマイスターとして選出しました。

歯・口のけがの防止と安全な環境づくり

体育の授業や学級活動で、学校内の危険を予測し、回避する方法を考え、危険に対する意識

6年生「安全な学校生活」



安全な環境を目指して、校内の安全課題について話し合い、校内での事故0を目指して実践しました。

1・2年「多様な動きをつくる運動遊び」



多様な動きが、事故やけが防止にもつなげられると考え、腕を使って、体を支える動きや感覚を身に付ける運動遊びを行いました。

食べる機能や食べ方の発達支援を通じた実践的な歯・口の健康づくり

給食や家庭において「噛むこと」の大切さを実験や講話で学びました。

「噛むことについて」の集会(保健委員会)



普段の給食時の様子を振り返り、全校で「咀嚼ガム」を使って自分たちの噛む力を調べました。

保護者への啓発



保護者対象に栄養教諭から家庭でも「噛むこと」を実践してもらうため、噛むことの大切さや硬い食材を使った献立を紹介していただきました。